

「春休み TOKO勉強会」の感想

竹迫和子

今年も高校入試のシーズンが終わった。応援する受験生全員の合格がかなわなかったのはほんとうに残念だ。通える地元の高校へ、部活がやりたい、制服が着たい、男女共学がいい、といったごく普通に高校で学びたいという希望の前に、選抜という壁が立ちはだかっている。それを越えられないのは本人の責任ではないのだが。

思えば、2年前に埼玉で『「障害児」の高校進学を実現する全国交流集会』を開催しようと思立ったひとつの理由は、今年の受験生たちのことが頭に浮かんでのことであった。その受験が終わった。応援する立場としては力不足ですまなかったが、Kくんはサポート校に進学し新しい世界をたくましく切り開いていくことと思う。

そんな3月の終わりごろ、TOKOの勉強会で文教大学教育学部教授で特別支援教育研究室の八藤後忠夫さんのお話を聞いた。教員免許更新講習で特別支援教育の講義もしているそうである。え、特別支援教育？でも、やたらと山下さんが関心を持っているようで、それはなぜだろう？とか思いながら出かけた。久しぶりにカチカチに固い文や話にも、少し緊張しながら自分なりに解釈しようと努めながら聞いた。

八藤後さんは猪瀬良太くんの高校受験 2年目の蕨高校定時制の教員であった。その受験の時に良太さんに出会ったことが、現在の研究に大きく影響しているという。そう言えば、その受験のころ八木下浩一さんと良太さんのおとうさんである猪瀬良一さんと私と、というか私は二人のあとにくっついて職員室に「良太を入れてくれー！」と押しかけたことがある。今にしてみれば応援のつもりが逆に教員たちの反発を招いただけかもと思ったりするのだが、八藤後さんもその場にいたわけで…

良太さんは別室受験で、受け入れ反対と賛成の二人の教員の監督のもとで受験した。その時に、反対の立場の女性教員のブラウスのリボンに手をかけてしまった。ところがその女性教員は判定会議で「彼はなんとかこの学校で学ぶことができると思う。」と発言したのだという。採決で反対の方が多くて結果は不合格とされたのだが、なぜ女性教員が賛成に変わったのだろうか。八藤後さんは「教育実践が科学的根拠を援用しつつも多くは皮膚感覚とも言えるべき感性に依って成立していることを示唆する。」といった説明をしているが、う～ん、これはあらかじめこういうふうに教育しなければならぬというものがあるが、出会いや触れ合いの中で行動を起こし豊かなものになっていくといったような意味だろうか…という感じで聞いていった。

特別支援教育といっても、精神医学から見るとか、広い視野でとらえて、障害について決めつけてはいけないなど、警鐘を与える内容になっている。私たちが「一緒に

学ぶ」と言っていることともつながるものがある。これから教員をめざす学生に対してどんな講義をしているかなど、もっといろいろ話を聞いてみたいと思った。

終了後デニースでお茶を飲みながら、松森彪留(たける)くんの進路について相談したが、それについては次号で、松森くんが報告します。おたのしみに！

共に育ち共に学ぶ

TOKO野外交流おしゃべり会 のお知らせ



日時:5月11日(日) 午前10時～午後3時

場所:一ノ割公園

(一ノ割駅より徒歩13分、武里駅より徒歩21分)



5月の新緑の中、家族や友だちと一緒に、子どもも大人も、遊んだり、食べたり、おしゃべりしましょう。学校や地域での悩み・体験を持ち寄りましょう。

食事、飲み物は各自持参してください。楽しい一日をすごしましょう。(雨の場合など、会場を移しますので、あらかじめ電話を教えてください。)

参加費：1家族500円(資料代)

※ できましたら事前に参加申し込みをお願いします。申込先は下記。

【問い合わせ／連絡先】

藤ヶ谷 090 - 6141 - 4934

清水 048 - 979 - 1552

山下 048 - 737 - 1489

中山 090 - 2202 - 5271

mogucchi22hobbit@docomo.ne.jp

こちらもおいでください

TOKO ミニおしゃべり会は 4/11、5/9 です。

